

タカラバイオ株式会社
2019年3月期決算説明会 主要質疑応答内容

2019年5月16日（木）

野村證券日本橋本社講堂（東京都中央区）

回答者 代表取締役社長 仲尾 功一、取締役副社長 松崎 修一郎

2020年3月期のCDMO事業の売上予算の内訳について教えてください。

- ・ CDMO事業全体で58億円を予算化しています。このうち、ベクター製造、細胞加工、品質試験などの再生医療等製品関連受託は31億円、遺伝子解析・検査受託は27億円と予想しています。

旧 WaferGen、Rubicon 社製品の状況と今後の見通しについて教えてください。

- ・ 旧 WaferGen 製品は、前期（2019年3月期）にシングルセル解析装置の販売が予定より遅れ、業績を思うように伸ばせませんでした。今期は、本格的に営業活動に取り組み、挽回する予定です。装置のほかに、新アプリケーション用のキットも販売します。シングルセルに限らず、微量核酸分析分野全般へ展開をはかります。
- ・ 旧 Rubicon 製品は、NGS 分野で順調に業績を伸ばしています。自社ブランドのほか、OEM 供給による B to B 分野も好調です。
- ・ 今後は、多様なアプリケーションを開発し、TaKaRa、Clontech などのブランドの垣根を越えた相乗効果により、拡販していきたいと考えています。

5月31日から開催される米国臨床腫瘍学会(ASCO)での発表内容について教えてください。

- ・ 今朝（5月16日）、ASCO2019の抄録が公開になりましたので、当社が予定する発表について、ニュースリリースでお知らせしました。
- ・ 腫瘍溶解性ウイルス C-REV に関して1題、NY-ESO-1・siTCR[®]遺伝子治療に関し2題発表を予定しています。
- ・ C-REV は国内のメラノーマ第Ⅱ相臨床試験に関する発表、NY-ESO-1・siTCR[®]遺伝子治療は、国内で行った医師主導治験、もう1題はカナダで行った医師主導治験の結果です。カナダの医師主導治験については、プレゼンテーション資料（スライド番号21）でデータの一部を紹介しています。

C-REV の海外提携交渉はどのような状況でしょうか。

- ・ 前期は、2018年8月に韓国の東亜ST社と提携しました。
- ・ 欧米では、メラノーマを対象とした臨床試験データに加え、現在治験中のすい臓がんに関するデータとあわせ、より価値を高めた上で、ライセンス活動を進めています。
- ・ じっくりと交渉して適切な価格で契約したいと考えています。

新規 CAR 治療の開発を行っているとのことですが、どのような適応症を考えていますか。血液がん以外の固形がんでしょうか。いつ頃、臨床試験を開始しますか。

- ・ 現在の CAR 治療の課題は、治療効果の持続性、血液がん以外の固形がんへの適応拡大と認識しています。
- ・ 治療効果の持続性の向上に向けては、シグナル伝達系に GITR（グルコルチコイド誘導腫瘍壊死受容体）と JAK/STAT を利用した CAR 構造の研究を進めています。具体的には、シグナル伝達系に GITR を利用する系や、JAK-STAT 系の利用を検討しています。いずれも、実験動物を使った試験では、T 細胞のがんへの攻撃性を増長するとともに、T 細胞の寿命を延長し、抗腫瘍効果に優れることが示されています。
- ・ 適応症の拡大については、大腸がん、肺がん、食道がんなどの固形がんが発現する CEA（がん胎児性抗原）に反応する抗体を抗体部位に使用し、GITR と組み合わせた系で固形がんへの展開を計画しています。
- ・ 臨床試験の開始時期ですが、いずれのプロジェクトも前臨床試験中で、現段階では申し上げられません。

以上